



祭 が帰ってきた― 「日常」への回帰。



「非日常」から

人見山笠

本能寺 森蘭丸武勇ノ誉 / 姉川の合戦



て楽と言えば楽やったけど、祭りができてやっぱり嬉しいよ。祭りが生きがいみたいなもんやけんね(笑)。嫌なことがあっても祭があるけんがんばれる。祭を知らん子たちにも祭を経験させられてよかった」と嘯み締めるのは、上金田区長の辰島勝彦さん。祭が無くても人生は続きますが、3年ぶりの祭に人々は心の穴を埋めるように、あるいは濁きをいやすように祭を味わい、エネルギーを発散させていました。そして子どもたちは3年ぶりに、あるいは初めて目にする壮麗な山笠に圧倒されながらも目を輝かせ、思い切り祭を楽しんでいました。



上金田山笠

川中島の合戦 / 清正虎退治



待ちに待った祭。2年間の「空白」で積もる想い―

コロナ禍で中止されていた金田稻荷神社神幸祭が、10月22・23日3年ぶりに開催されました。コロナ禍に配慮し、2区(上金田)と6区(人見)のみが山笠を出す小規模開催。しかしその運営は、来年以降の完全開催を見据え各地区の氏子代表者によって行われました。祭には熱い人が多いことで知られる金田地区。祭がないことは、いくらコロナ禍の非常事態とはいえ耐えがたいことでした。その祭が3年ぶりに開催されるとあって、小規模開催にもかかわらず御旅所は想像以上の人出。久しぶりに祭の空気に触れた人々の興奮が更に祭の空気を濃くし、どんどん昂ぶる気持ちで満たされた御旅所を、巫女舞と獅子舞が彩り、賑わう出店が風情を醸し出します。「この2年祭がなくて、裏方とし

